

## 長野市の未来を語ろう「みんなでトーク 2010・ながの」 報告書

市民感覚・市民目線を大切にしながら、本市の将来を幅広い年代の市民と共に考えていくため、下記のとおり「長野市の未来を語ろう『みんなでトーク 2010・ながの』」を開催した。

### 1 キックオフ・トークの開催

国内外で活躍する方々を招き、「外から見た長野市」の視点から意見交換を行った。

- (1) 日時：平成 22 年 10 月 12 日(火) 18時から
- (2) 会場：ホテルメトロポリタン長野 3階「浅間」
- (3) 出演者：ゲスト 幡野保裕（ふるさと NAGANO 応援団メンバー、客船「飛鳥」元船長）  
上村愛子（フリースタイルスキー選手）  
上條麻美（元放送ディレクター、市内在住）  
長野市長 鷲澤正一  
コーディネーター 武田 徹（フリーパーソナリティ）
- (4) 要旨：別紙 PRのとおり

### 2 年代別懇話会の開催

公募による市民と市職員とによる「① 18 歳から 29 歳まで」「② 30 歳から 49 歳まで」「③ 50 歳以上」の 3 つの年代別懇話会において「長野市の将来」について意見交換を行った。

- (1) 年代別懇話会メンバー（※「C」＝コーディネーター）
  - ① 18～29 歳：C 牛山美耶子（SBCアナウンサー）、公募市民 7 名、市職員 5 名
  - ② 30～49 歳：C 山本 修（長野青年会議所理事長）、公募市民 7 名、市職員 4 名
  - ③ 50 歳以上：C 武田 徹（フリーパーソナリティ）、公募市民 7 名、市職員 3 名
- (2) 開催経過
  - ① 18～29 歳：9 月 29 日、11 月 4 日、11 月 24 日、1 月 18 日（計 4 回開催）
  - ② 30～49 歳：9 月 29 日、11 月 9 日、11 月 30 日、1 月 25 日、2 月 1 日（計 5 回開催）
  - ③ 50 歳以上：9 月 29 日、10 月 26 日、11 月 16 日、1 月 12 日（計 4 回開催）

### 3 ファイナル・トークの開催

年代別懇話会のメンバーが一堂に会し、各懇話会で話し合われた内容や提案などを発表し合い、さらに意見交換を行った。

- (1) 日時：平成 23 年 2 月 10 日(木) 18時から
- (2) 会場：長野市生涯学習センター 4階 大学習室 1
- (3) 出席者：年代別懇話会メンバー全員、長野市長、武田 徹（総合コーディネーター）
- (4) 各懇話会からの意見・提案内容
  - ① 18～29 歳：「善光寺・ザ・夢公園」
  - ② 30～49 歳：「自給自足の街 NAGANO」
  - ③ 50 歳以上：意見・提案等を 5 つの視点で集約



## ●出演者●

客船「飛鳥」元船長／ふるさとNAGANO応援団メンバー	幡野 保裕さん
フリースタイルスキー・女子モーグル選手	上村 愛子さん
元放送ディレクター	上條 麻美さん
長野市長	鷲澤 正一さん
コーディネーター フリーパーソナリティ	武田 徹さん

## 海外選手もNAGANOは大好き、もてなしの心は“金メダル”です

海外の選手は皆、長野で開く大会を楽しみにしています。競技施設やアクセスが完璧だということもありますが、地元の方のもてなしの心が何よりも素晴らしい。選手たちは口々に「長野の人は温かい」と言います。この点では、間違いなく世界でもトップクラスだと思います。

「善光寺に連れてって」とリクエストされることもよくあります。海外の人々は日本文化に興味津々。それを味わえる建物がスキーエリアのすぐ近くにあるのも長野の大きな魅力のようです。

スキーという競技は自然の中でしかできないので、最近では環境問題も気になります。シーズンの多くを過ごすスイスのツェルマットは、電気自動車でしか町の中に入ることができません。スキー観光の町として景観も見事に統一されていて、どこの家にもあふれるほど花が飾られています。人の心も温かく、私にとって長野の次に落ち着ける町です。

人間は「あれがほしい」「これもほしい」と欲深いことを考えますが、今、手の中にあるものを、ちょっと違う視点から見直せば、いろいろな可能性が見えてくると思います。個人的には、スキーエリアだけでもいいから、電気自動車や燃料電池の自動車を走らせてほしい。それと、国際大会をもっと開催してほしい。この二つをお願いしたいですね。



フリースタイルスキー・モーグル選手  
上村 愛子さん

【うむらあいこ】兵庫県伊丹市生まれ。白馬高校出身、北野建設スキー部所属。1998年、高校3年生で長野オリンピックに出場し7位入賞。その後、ソルトレック6位、トリノ5位、バンクーバー4位と五輪4大会連続で入賞を果たした。07-08シーズンはワールドカップ5連勝で日本人初の種目別年間優勝を達成、08-09シーズンは世界選手権大会（猪苗代）でシングル、デュアルの二冠を果たした。

長野市の将来について幅広い年代の市民とともに考える「長野市の未来を語ろう『みんなまでトーク2010・ながの』」の開幕となる「キックオフ・トーク」が10月12日、市民ら約180人が参加して市内のホテルで開催されました。

フリースタイルスキー・女子モーグル選手の上村愛子さん、客船「飛鳥」の元船長で「ふるさとNAGANO応援団」メンバーの幡野保裕さん、元放送ディレクターの上條麻美さんの3人がゲストとして登壇。世界を旅したなかで印象に残った海外の町のことや、外から見た長野市の魅力などについて語り合ったり、鷲澤正一市長と意見を交換しました。要旨を紹介します。

鳥の元船長で「ふるさとNAGANO応援団」メンバーの幡野保裕さん、元放送ディレクターの上條麻美さんの3人がゲストとして登壇。世界を旅したなかで印象に残った海外の町のことや、外から見た長野市の魅力などについて語り合ったり、鷲澤正一市長と意見を交換しました。要旨を紹介します。

長野市の未来を語ろう  
「みんなまでトーク2010・ながの」

元放送ディレクター  
上條 麻美さん

【かみじょう・あさみ】信越放送の放送ディレクターとして「ほっとスタジオ」「Uパレード」など、夕方の情報番組を担当し、県内各地取材。2007年に退職。長野市在住、一児の母。

## 県外に出た子どもたちが安心して戻れるまちが理想です

テレビ番組のディレクターとして、主に夕方の情報番組を担当しましたが、県内各地の皆さんとアットホームなお付き合いができ、とても楽しかったですね。たくさんの方の地域を回ってしみじみ感じたのは、人の温かいところには2度、3度と行きたくなるし、番組も良いものになるということ、そして、おいしい食べ物があるところは、間違いなく活気があるということです。

例えば駒ヶ根市。ソースカツ丼の町としてすっかり有名になりましたが、カツ丼自慢のお店にはたいがい二代目、三代目という後継者がいます。そして、その皆さんが世代別のグループを作って、まちづくりを盛り上げているんですね。

長野市にも新しいご当地メニューができたらいいのに。その名前を付けた小路や横町ができたら、楽しいなあ。つい、そんなことを考えてしまいます。そうした取り組みも始まってはいますが…

子どもを持つと環境問題も気になるし、景気・経済のことも気になります。県外の学校に進学したとしても、子どもたちにはやはり長野に戻ってきてほしい。受け皿となる企業にもがんばっていただきたいし、私も市民の一人として何ができるか、真剣に考えなければいけないと痛感しています。

恥ずかしがらずに誇りを持って  
市民みんなで情報発信

「飛鳥」のキャプテン（船長）として世界中の港町を回りました。そのなかで印象に残っているのは、まず、ニュージーランドのクライストチャーチ。小さな港町ですが、ガーデニングの町として広く世界に知られています。町中の家々が丹精込めて育てた庭を開放しており、花のシーズンには世界中から訪れる観光客でにぎわいます。

フランスのラ・ロシェルでは、カンヌにも劣らない立派な映画祭が開催されていました。映画祭と音楽祭に加えて、最近では環境がこの町の売り物で、観光客も日によっては公共交通か、車ならレンタルの電気自動車でないとい中心市街地に入れないということでした。

電気自動車についてはサンフランシスコも同様です。ベイエリアの他市と一緒にパワーステーション（充電施設）の整備などに力を入れ、それが市の看板事業になっています。こうした町に共通して言えるのは、町の隅々までコンセプトが統一されていること。そして、情報の発信が非常にうまいことの2点だと思います。

私は高校時代を長野市で過ごしましたが、素晴らしい自然が人の住む地域のすぐ近くに広がっています。多様な生物をはぐくむ里山も多いし、歴史的な町並みもある。こうした地域資源を見直し、上手に発信すれば、集客力のあるまちづくりは可能です。手前みそと恥ずかしがらず、誇りを持ってPRしてほしいと思います。



客船「飛鳥」元船長／ふるさとNAGANO応援団メンバー  
幡野 保裕さん

【はたの・やすひろ】北京生まれ。東京・横浜で幼年時代を過ごし、高校時代は柔道の長野県代表として活躍。1968年日本郵船株式会社入社。コンテナ船やタンカーなどの経験を積み、船員教育、労務管理なども担当。95年4月から副船長として豪華客船「飛鳥」に乗船、96年6月から2003年3月まで船長を務め、4回の世界一周クルーズを指揮した。郵船クルーズ株式会社顧問。

地域が元気になるために、  
みんなで語ろう！長野市の未来

将来の夢や目標は、私たちの日々の暮らしを充実したものにしてくれます。市民参加で長野市の将来像を語り合う今回の一連の企画は、ほかにはあまり例を見ない、とても夢のある企画だと思います。

10年後、20年後、私たちを取り巻く世界はどうなっているでしょう。環境・エネルギー問題はいつそう深刻化し、世界的な食糧難もやってくるかもしれません。だとすれば、自然エネルギーや農林業資源を活用したまちづくりという方向性もあると思いますし、世界各地の紛争に思いを巡らせば、あらゆる宗派を受け入れる善光寺さんのおびざ元として、平和の象徴的なまちづくりも可能でしょう。

「外から見た長野市」という観点からゲストの皆さんに語っていただいたさまざまなことを、私も大いに参考にさせていただきます。長野市民として主体的に、今後のまちづくりに参加していきたいと思っています。



コーディネーター  
フリーパーソナリティ  
武田 徹さん

【たけだ・とる】1969年信越放送入社。報道部記者を経て、ラジオを中心にディレクター、プロデューサーを歴任し、同局のラジオパーソナリティとしても活躍。98年退社後もラジオ・テレビで活躍、講演会やフォーラムでコーディネーターを務めている。

住民の皆さんの参加で、  
まちづくり新時代へ

平成の大合併を経て、長野市は人口39万人、835平方キロという、広大な市域を有する都市へと生まれ変わりました。地勢や産業、文化の異なるそれぞれの地域の活性化には、これまでとは切り口が異なるまちづくりの発想が必要です。

例えば松代地区では、住民の皆さん自らが企画運営する「エコール・ド・まつしろ」の取り組みが成功を収めていますし、大岡地区には小水力発電による地域活性化の動きがあります。鬼無里地区の皆さんからは先日、電動自転車によるまちづくりの提案がありました。地域内普及だけでなく、電動自転車によるエコツアーで観光集客を図りたいというものです。エコツアーという切り口なら、ノルディックスキーで奥裾花をめぐるツアーといった展開ができるかもしれません。発展性が期待できるユニークな企画だと思えます。

地域の多様性を生かしたまちづくりには、地域を愛し、地域を一番よく知る住民の皆さんの主体的な参加が不可欠です。

市民の皆さんとともに市の将来像を描く年代別懇話会「みんなまでトーク」を契機に、市としても「まちづくり新時代」へと踏み出したいと思っています。



長野市長  
鷲澤 正一さん

【わしざわ・しょういち】1962年、株式会社炭平鷲澤本店入社。63年同社代表取締役社長に就任。長野県PTA連合会会長、長野市教育委員、長野商工会議所副会頭などを歴任し、01年11月長野市長に初当選。現在3期目。

## 【みんなまでトーク2010・ながの】

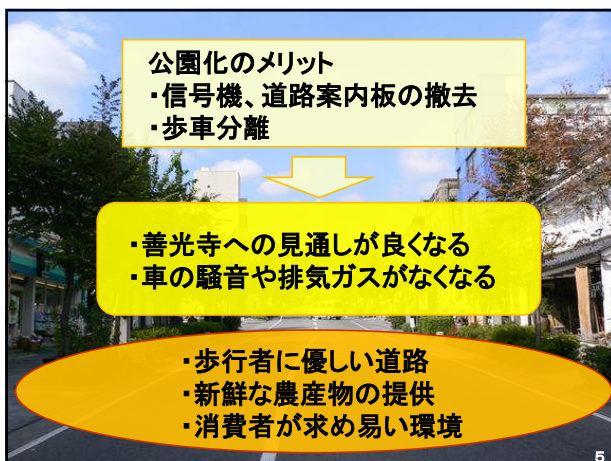
「みんなまでトーク2010・ながの」は、10年後、20年後の長野市の未来像を、行政と市民が語り合いながら描いていく取り組みです。「キックオフ・トーク」を皮切りに、来年1月にかけて、公募の市民が年代別に▽18～29歳▽30～49歳▽50歳以上—の三つの懇話会に分かれ、市職員らと意見を交換。2月には締めくくりとなる「ファイナル・トーク」を開き、懇話会での議論をさらに深めます。市は集まった意見や提案を第4次総合計画後期基本計画策定の参考に考える。



キックオフ・トーク  
「外から見た  
長野市」

報告

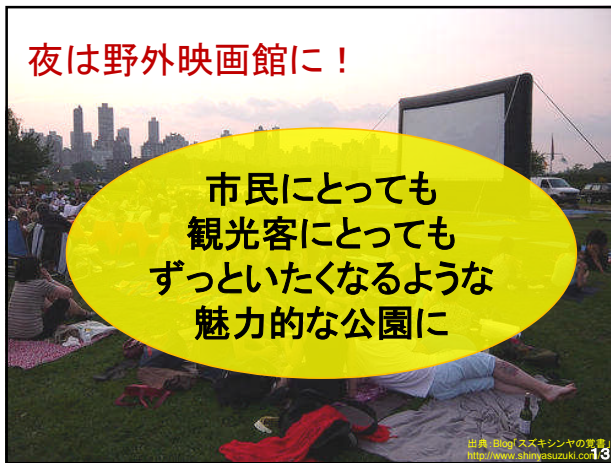












住民主体の『OMOIYARI』溢れる長野市づくり

## 自給自足の街 NAGANO

NAGANOを变える力  
～すべてを自分たちで～

みんなで トーク 2010・ながの  
30～49歳

1

### NAGANOに求められていること

- 国・行政依存からの脱却  
長野市自らのビジョンを掲げ  
その実現の方向・方法の選  
択についても独自に意思決  
定し、住民の主体的な活動  
ができる地域へ
- 行財政の逼迫
- 国主導の地域施策の限界  
成熟社会、多様なニーズへ  
の対応に限界  
全国一律の地域開発から  
個性のある地域づくり

住民主体の地域づくり  
住民自治協議会の活性化  
NAGANOの固有性を生か  
したNAGANOづくり

地方分権・地方主権へ  
NAGANOの時代へ

2

### NAGANOづくりとは

- NAGANOづくりの定義  
『NAGANOに暮らす人が、自  
らの自発的な行動によって  
NAGANOの資源(自然、景観、  
歴史、文化、産業、生活、人材)  
を生かしながら、  
NAGANOの課題を解決し、  
「よりよい暮らし」を実現してい  
く取り組み』
- NAGANOづくりの条件
  - ①活動のフィールドが「生活  
の場」としての地域社会  
であること
  - ②地域住民主体の自発的  
行為であること
  - ③公益的な目的を持って地  
域社会の問題解決のた  
めに行われること
  - ④活動の手段として地域資  
源を活用すること

3

### より良いNAGANOに向けて NAGANOブランド形成

(1)モノのブランド化  
地域イメージの  
付加によって地域  
の製品、商品の  
競争力を高める

(2)地域全体のブランド化・暮らしのブラン  
ド化  
『NAGANOに暮らすことの豊かさを見  
つめ、NAGANO固有の資源を活かし、  
NAGANOに暮らすことの豊かさを体  
現して、NAGANOの魅力・価値をつ  
くること』  
魅力・価値が内外に支持、共感された結  
果が新しいNAGANOブランドになる

一般的なブランドとは⇒差別化・優位性をもたらし嗜好性を高めるもの

4

### NAGANOブランド形成 資源

(1)モノのブランド化

- ①そば
- ②B級グルメ焼きそば
- ③おやき
- ④りんご
- ⑤味噌

(2)地域全体・暮らしのブランド化

- ①地方分権 ⇒ 住民自治協議会
- ②環境 ⇒ 太陽光、リサイクル
- ③地産自消
  - ・農業の発展 ⇒ 気候変動を考慮したワイン栽培、自給率向上(農業の法人化)、食品産業・観光業・関連企業の連携、食の安全性、少量多品目型の生産学校給食等での地元野菜利用
  - ・観光資源の活用 ⇒ 善光寺等(灯明まつり、びんずる祭り、松代)
  - ・企業の発展 ⇒ ワイン工場誘致、信大と連携した知識集約型企業誘致
  - ・教育の発展 ⇒ 大学誘致、スポーツ選手育成
  - ・子育ての充実
  - ・介護の充実
  - ・ボランティア精神の育成

5

### NAGANOブランド形成の仕組み

地域の暮らし

目指すNAGANO像

自給自足力=自分たちでやる力

住民 リーダー

外部の支援者  
有識者

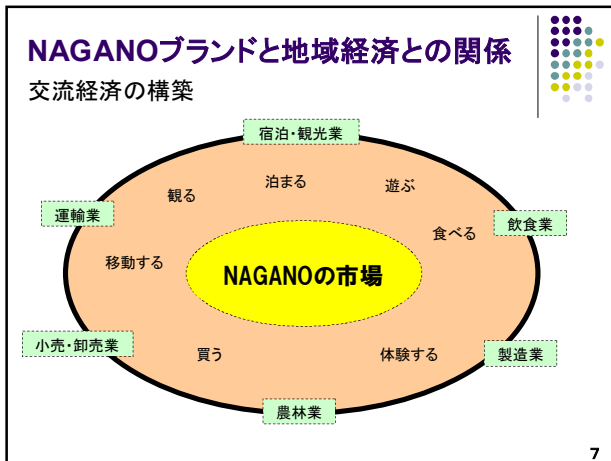
継続力 コミュニケーション力 発信力

継続の仕組み  
拠点となる組織

参加の仕組み  
議論の場  
学習の機会

情報発信の仕組み

6



金メダルを目指して

NAGANO に暮らす人が、自らの自発的な行動によってNAGANOの資源を生かしながら、様々な分野と連携することで『自給自足力』=『自分たちでやる力』を推進し、自立したNAGANOを構築する。

8

長野市の未来を語ろう  
「みんなでトーク2010・ながの」

50歳以上懇話会

1

目次

- 1 長野市のポテンシャル(潜在能力)
- 2 広域連携等による定住人口の増
- 3 観光振興等による交流人口の増
  - ① 長野市全体
  - ② 善光寺など中心市街地
  - ③ 中山間地域
- 4 長野市を農業立国に
- 5 キーワードは「郷土愛・地域愛」
  - ① 愛着あるまちづくりとコミュニティーの再生
  - ② 故郷を愛する次世代の育成

2

1 長野市のポテンシャル(潜在能力)

都会の人が何を求めているか。

- 農業、スキー、山登り、自然の豊かさ。採れたての野菜や果物
- パワースポット・癒し・信仰の対象(善光寺、戸隠、飯綱)
- 日本の真ん中(地勢的な特徴)  
→ ハブ空港のような仕組みづくり
- 長野の弱みは、逆に強み。→ 例えば「寒さ」
- 「住みたい」とは何か。→ 気候、治安、教育の水準

羨ましがられる潜在的なものを  
総合的にプロデュースする。

3

2 広域連携等による定住人口の増

- 広域圏では50万都市。将来、道州制に移行した場合でも、行政の中心都市であり続けられるよう、あらゆる面で広域を意識する必要あり。
- 善光寺には全国から信者が集まる。癒しの場として長野市で余生を送りたい人が全国にいるはず。総合特区を活用し、市内32地区が一校一國のように全国の自治体と連携し、介護施設を受け入れる。
- 廃業したホテルをワンルーム・マンションに変え、健康な高齢者の施設に。

4

3 観光振興等による交流人口の増

①長野市全体

- 長沼の屋台のように、各地区に文化財が眠っているのではない。長野の祇園を復活させてはどうか。
- 各地区のイベントが個々別々に動いている。滞在型の観光客を呼び込めるように、連携して、開催日をずらしながら連日イベントを行うなどの工夫が必要。
- 日本は長寿の国。中でも信州は日本一。海外からの観光の視点として、長寿県であること、高齢化社会の良い面をPRした方がよい。
- キーワードは「健康」と「善光寺」。中山間地域での生活も含めて、スローライフを提案する。

5

3 観光振興等による交流人口の増

②善光寺など中心市街地

- 観光客にアピールし、長野駅から善光寺に向かわせるものが欲しい。善光寺が見える「スポット」が欲しい。
- 中央通りに木陰でゆっくり休める場所や、長野駅から善光寺まで無料で乗り降りできる乗り物があると良い。
- 世界宗教者会議の開催を考えてはどうか。宗教のあり方を発信し、世界に売り出すチャンス。
- 子供たちに善光寺のガイドをしてもらったら。
- 観光で訪れたときなど、街に出るきっかけ、市街地を回遊するきっかけは、日常的に賑やかな「あの界隈、あの横丁」があるかどうかだ。

6



### 3 観光振興等による交流人口の増

#### ③中山間地域

- 中山間地域の振興は観光。各地域を観光の拠点にして、交通ネットワークで結ぶ。各地区が全国の都市と姉妹都市を結んで、広域で活発に展開する。
- トレイルランには人が集まる。観光と兼ねるのも良い。信越トレイルの整備によって、里山の整備を。「自然」にスポーツや福祉などを組み合わせる。
- 森林の再生に資金は必要。信州DC、パワースポット人気で戸隠は観光客が増えた。森を求める人と森を再生したい人を結びつける方法を見出すことが必要。7

### 4 長野市を農業立国に

- 小規模な個人業でなく、世界に通じる産業として成り立つよう、日本の農業を変える必要がある。
- 付加価値をつける農業をやり、農業に魅力を感じるまちにすることが大事。特に中山間地域を農業立国にしたい。担い手の高齢化が進んでいるので、新規就農支援の需要や受け入れ手はあると思う。
- 地産地消を進める。自給自足率をカウントアップして「見える化」してはどうか。
- 農業は成長・観光産業でもある。観光、地場産業、農業体験などを組み合わせた施設を造ってはどうか。8

### 5 キーワードは「郷土愛・地域愛」

#### ①愛着あるまちづくりとコミュニティの再生

- 住民自身が「ここに来れば憩える」まちづくり、定住者が便利に感じ、自慢できるまちづくりが大切。
- 中心市街地に魅力や便利さが無くなった。近所での買い物や、安心して住める環境がなければ、愛着は湧かない。人中心のまちづくりをデザインすることが必要。
- 地域を愛し、大きな見地でまちを発展させる「大人の心」が失われている。郷土愛を培い、市の発展につなげる。
- 地域のまとまりや隣近所の協力がなくなった。共生の姿を示せたら、魅力ある市になる。地域ぐるみの取り組みが、自分たちのまちを考え、郷土愛を育むことになる。9

### 5 キーワードは「郷土愛・地域愛」

#### ②故郷を愛する次世代の育成

- 今の子どもたちは、山や自然と親しむことがない。大人たちがボランティアで、子どもたちを自然に親しめる大人にする。
- 子どもには「経験させること」が大切。その子が将来、自分の子どもに自分の故郷を語れるか、県外にいても故郷を応援したいという気持ちになれるかが重要。
- 「都会のホワイトカラー」から「自然の中で作物を」という人材をつくる。人間として根本的な部分、知恵や価値観の教育、地域での教育が大事。
- 4年制大学が必要。医療・福祉・介護・教育・芸術等。10